

## 「磐梯朝日遷移プロジェクト」に関する認知度と要望 —北塩原村の住民とエコツーリズム・ガイドを対象として—

川崎興太（福島大学・共生システム理工学類）  
三部和哉（福島大学大学院・共生システム理工学研究科）  
星 優太（福島大学大学院・共生システム理工学研究科）  
佐藤 歩（福島大学大学院・共生システム理工学研究科）

### 要 旨

福島県北塩原村の住民とエコツーリズム・ガイドを対象に、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度とこれに対する要望に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査を通じて、住民についてもエコツーリズム・ガイドについても、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の存在あるいはその研究成果を知らないが、今後は知りたい者が多いということが明らかになった。また、「磐梯朝日遷移プロジェクト」に対して、住民は、研究の成果を広く公表すること、調査の結果に基づいて実践的な活動指針を提示することを望んでおり、エコツーリズム・ガイドは、遷移途中にある自然環境を観光などに活かしながら維持・保全するための研究を望んでいることが明らかになった。

### I. はじめに

本稿は、平成 24 年度から福島大学共生システム理工学類に所属する教員が進めている「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度とこれに対する要望に関するアンケート調査の結果を報告するものである。

調査の対象者は、行政区画の一部が磐梯朝日国立公園に指定されている福島県北塩原村の住民と、磐梯朝日国立公園の自然や歴史・文化などに関する専門知識を活かしてガイド業を営むエコツーリズム・ガイドである。

### II. 北塩原村の住民の認知度と要望

#### 1. 調査の方法

筆者らは、福島県北塩原村の住民の国立公園と国立公園制度に関する意見を把握するため、平成 26 年 7 月 11 日に、北塩原村の広報誌への折り込みによって、行政区画に加入している全ての世帯の世帯主に対してアンケート調査票を配布し、同月 28 日までに郵送にて回収した。調査票の配布数は 1,003 件であり、回収数は 189 件、回収率は 19%

である。

以下に、このアンケート調査の結果のうち、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度とこれに対する要望に関する結果を示す。なお、回答者の属性については、本報告書掲載の川崎・三部（2015）を参照していただきたい。

#### 2. 調査の結果

##### (1) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？

「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果について、「すでに知っている」は 32 件（17%）、「これまで知らなかったが、今後は知りたい」は 133 件（70%）、「これまで知らなかったが、今後も知らなくてよい」は 19 件（10%）、無回答は 5 件（3%）である（図 1）。

年齢層別に見ると、母数が少ない年齢層があるので確たることは言い難いところがあるが、いずれの年齢層についても、基本的には上記の全体的な傾向と同様であり、強いて言えば、若い年齢層ほど「すでに知っている」の割合が高くなってい

る。

職業別に見ると、これについても母数が少ない職業があるので確たることは言い難いところがあるが、特徴的なこととしては、宿泊業や飲食サービス業などの観光関連の職業では「すでに知っている」の割合が高く、建設業、卸売業・小売業、無職を含む「その他」では「これまで知らなかったが、今後は知りたい」の割合が高くなっている(図2)。

国立公園区域の内外で見ると、国立公園区域内では「すでに知っている」が20件(27%)で、国立公園区域外と比べてその割合が高いが、それでも「これまで知らなかったが、今後は知りたい」が48件(65%)となっている(図3)。

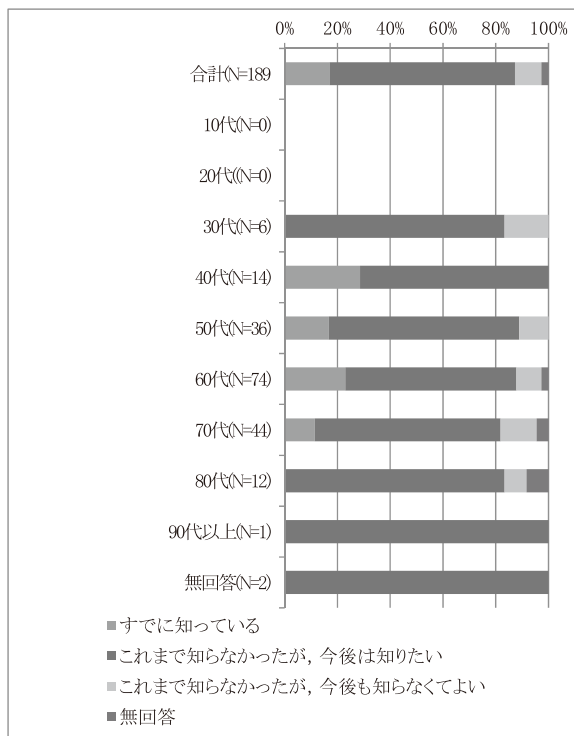


図1 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？【年齢層別】

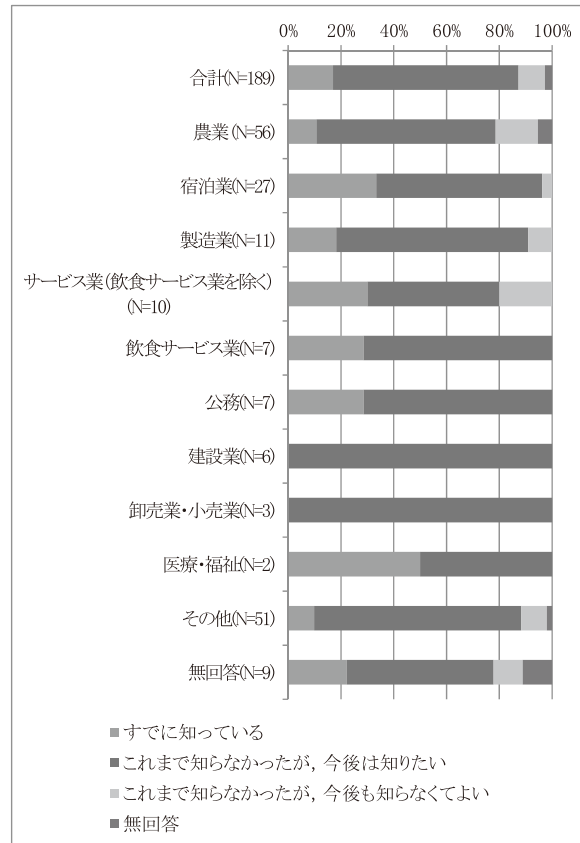


図2 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？【職業別】

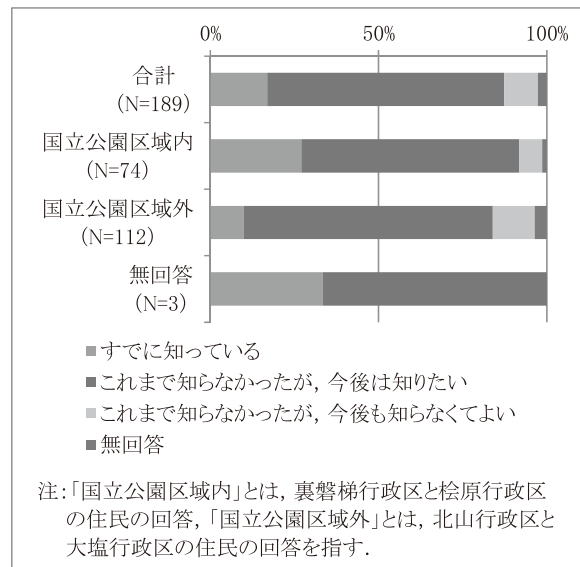


図3 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？

(2) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」に対する要望  
磐梯朝日国立公園に関する意見や考えについて

て、自由記入方式で得られた回答のうち、「磐梯朝日遷移プロジェクト」に関する記述を抜粋すると、図4の通りである。

得られた回答は4件であるが、研究の成果を広く住民に公表すること、調査の結果に基づいて実践的な活動指針を提示することなどが求められていることがわかる。

- このように福島大学の方々が、いろいろ研究されていることに感謝いたします。今後、子孫にすばらしい自然環境を残していくために、ぜひ、地域の人達と協力して、日本でも自慢できる国立公園にしたいと思っています。植物・動物・虫・人間が、共に生きていくすばらしいところになりたいと思っています。【回答者の属性等：男性・50代・宿泊業・国立公園区域内・磐梯朝日遷移プロジェクトの研究成果について「これまで知らなかったが、今後は知りたい」と回答】
- 研究成果を村の広報の他に、詳細な研究データと対処の工夫についてのアドバイスがほしい。その為の優先順位も示してほしいと思います。【回答者の属性等：男性・60代・農業・国立公園区域外・磐梯朝日遷移プロジェクトの研究成果について「これまで知らなかったが、今後は知りたい」と回答】
- 動物保護も大切だが、里にこわい動物がこない研究もしてくださればありがたいです。【回答者の属性等：女性・60代・無職（主婦）・国立公園区域外・磐梯朝日遷移プロジェクトの研究成果について「これまで知らなかったが、今後は知りたい」と回答】
- このようなアンケートが本当に役に立っているのか？ 研究や論文だけに使われるのではなく、国立公園の今後の発展に本当に生かされるのか、疑問に思う。結果を村民に公表すべき。【回答者の属性等：男性・60代・農業・国立公園区域外・磐梯朝日遷移プロジェクトの研究成果について「これまで知らなかったが、今後も知らなくてよい」と回答】

図4 磐梯朝日遷移プロジェクトに対する意見や要望

### III. エコツーリズム・ガイドの認知度と要望

#### 1. 調査の方法

筆者らは、磐梯朝日遷移プロジェクトのメンバーである福島大学共生システム理工学類の塘と

黒沢とともに、「磐梯朝日遷移プロジェクト 平成26年度連携研究」として、「プロジェクトの成果の普及に向けた裏磐梯のガイドを中心とするエコツーリズム関係者のヒアリング」を実施した。

この研究では、裏磐梯におけるエコツーリズムの実態などを把握するため、エコツアーを実施しているガイド団体のうち、最も活発にエコツアーを実施している団体の一つである「裏磐梯エコガイドの会」に所属するガイドを対象として、平成26年6月10日から手渡すまたは郵送でアンケート調査票を配布し、平成26年9月3日までに郵送にて回収した。調査票の配布数は「裏磐梯エコガイドの会」に所属するガイドの全員分にあたる14件であり、回収数は14件、回収率は100%である。

以下では、連携研究者である塘と黒沢の承諾を得て、このアンケート調査の結果のうち、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度とこれに対する要望に関する結果を示す。

#### 2. 調査の結果

##### (1) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」を知っているか？

福島大学共生システム理工学類に所属する教員が「磐梯朝日遷移プロジェクト」を進めていることについて、「知っている」は2件（14%）、「知らない」は12件（86%）である（図5）。

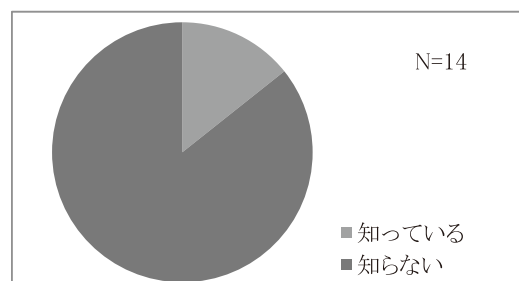


図5 「磐梯朝日遷移プロジェクト」を知っているか？

(2) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？

福島大学共生システム理工学類に所属する教員が「磐梯朝日遷移プロジェクト」を進めていることを「知っている」2件のうち、これまでの「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果について、「詳しく知っている」は1件（50%）、「少し知っている」は1件（50%）である（図6）。

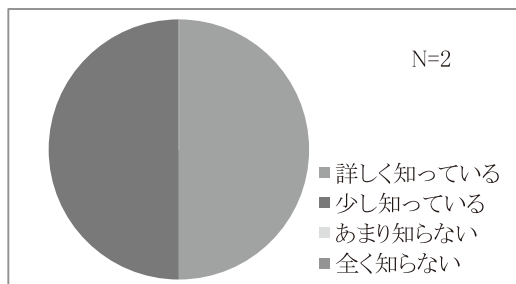


図6 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知っているか？

(3) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果をガイドに活かしているか？

これまでの「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を「詳しく知っている」または「少し知っている」の2件のうち、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を実際のガイドに「活かしている」は2件（100%）である（図7）。

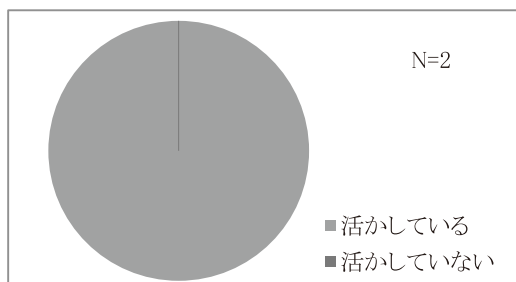


図7 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果をガイドに活かしているか？

(4) 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を詳しく知りたいか？

福島大学共生システム理工学類に所属する教

員が「磐梯朝日遷移プロジェクト」を進めていることを「知らない」12件のうち、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を「知りたい」は11件（92%）、無回答は1件（8%）である（図8）。

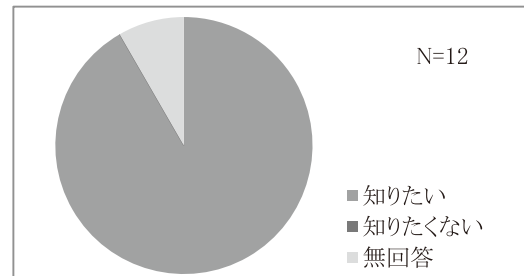


図8 「磐梯朝日遷移プロジェクト」の研究成果を知りたいか？

(5) 今後、「磐梯朝日遷移プロジェクト」でどのようなことが調査・研究されることを望むか？

今後、「磐梯朝日遷移プロジェクト」でどのようなことが調査・研究されることを望むかについては、大きくは、植物、観光、動物、水、ガイドが挙げられている（図9）。植物や生物全般の多くは、特に噴火後の裏磐梯の遷移に関してである。磐梯朝日遷移プロジェクトのテーマである、遷移途中にある自然環境を観光などに活かしながら維持・保全するための研究に期待する意見が複数寄せられている。

IV. まとめ

本研究で実施したアンケート調査の対象者は、住民については北塩原村の世帯主、エコツーリズム・ガイドについては「裏磐梯エコガイドの会」によるものに限られているが、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度に関して、住民もエコツーリズム・ガイドも、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の存在あるいはその研究成果を知らないが、今後は知りたい者が多いということが明らかになった。また、「磐梯朝日遷移プロジェクト」に対して、住民は、研究の成果を広く公表すること、調査の結果に基づいて実践的な活動指針を提示す

**【植物】**

- ヨシによる沼の変化。
- 五色沼の遊歩道ではここ数年でミズナラの幼木が目立つようになってきました。どのように遷移していくのか興味深いです。また、トチノキの幼木も大木のまわりに沢山見られます。
- 植物の遷移を静かに見守るべきなのか・・・？
- 国立公園内の保護について研究して欲しい。観光地としての保護。特に五色沼周辺。手を加えなければ、観光が成り立たなくなるおそれもある。
- 外来植物（オオハンゴンソウ・ハルジオン等）の特性を調べ、駆除方法を具体化する。

**【観光】**

- 現状を知ることが大切だと思います。五色沼はそのために特別保護地区にしたのですから。しかしながら、観光要素もあるのですから、どのように生かしていくのか。研究と保護だけでは、観光目的から遠くなっていく。
- 全国の国立公園や国定公園でツアー誘致のための方策と成功事例の紹介をガイド団体に示して欲しい。
- 行政側に対する、裏磐梯への誘客のための感心度と施策への取り組みについて。

**【動物】**

- 沼の中には、現在、どのような魚がいるのかははっきりした種類がわかりません。弁天沼でも魚がはねるのが見られます。アブラハヤなのか？レンゲ沼にも沢山の小魚が見られました。何の魚でしょうか？

**【生物全般】**

- 荒地だった噴火後の裏磐梯の地に、どのようにして植物、動物が復元したのか。

**【水】**

- 五色沼の色はなぜ青いかなど水の色の問題。

**【ガイド】**

- ガイドを行うスキルの共有。

「磐梯朝日遷移プロジェクト」では、過去3年間にわたる調査・研究を通じて、さまざまな成果を蓄積されており、毎年度末に地元で成果報告会を開催することで、その成果の還元が行われている。しかし、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度は必ずしも高いとは言えず、成果を十分に伝えきれているとは言えない状況にあると考えられる。

「磐梯朝日遷移プロジェクト」は、平成27年度で最終年度を迎え、自然環境を維持・管理するためのビジョン『磐梯朝日国立公園の100年計画』を策定することが予定されている。その策定にあたっては、例えば、行政の協力を得ながら、調査・研究の成果の概要やビジョンの素案を広報誌に折り込むことなどにより、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の認知度の向上と成果の周知を図るとともに、成果に対する住民等の意見を把握する機会を設けることなどが検討されてよいように思われる。こうしたことを通じて、「磐梯朝日遷移プロジェクト」の終了後において、ビジョンの実現に向けた成果の具体的な還元や活用、地域に根ざした研究の継続が可能になると考えられる。

**引用文献**

川崎興太・三部和哉（2015）磐梯朝日国立公園におけるエコツーリズムに関する住民意識—福島県北塩原村の住民を対象として—, 共生のシステム, 15, 312-319.

図9 今後、「磐梯朝日遷移プロジェクト」でどのようなことが調査・研究されることを望むか？

ることを望んでおり、エコツーリズム・ガイドは、遷移途中にある自然環境を観光などに活かしながら維持・保全するための研究を望んでいることが明らかになった。